おうぶつ

2019年（令和元年）6月　第31号

Newsletter
by Department of Applied Physics, Tohoku University
東北大学 大学院工学研究科 応用物理学専攻
工学部電気情報物理工学科 応用物理学コース

I'll be your HERO

シリーズ第１回

応物OBから在校生へのメッセージ

スピントロニクス理論

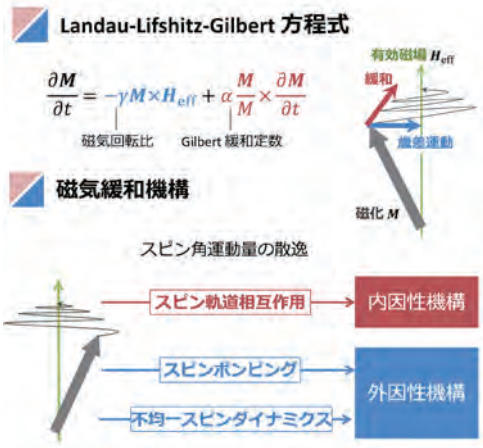
平成 26 年度　博士号取得　応物 OB
梅津信之（うめつ・のぶゆき）さん
現在、東芝メモリ株式会社に勤務。
佐久間研究室に在籍し、スピントロニクス理論の研究に従事。佐久間研究室は「紙と鉛筆で計算すること」を基本理念としており、計算技術だけでなく物理センスを磨くことができる学びの場。先生やメンバーに恵まれ、自由闊達な研究生活を経験できたことは一生の財産。

早３年、４年目。会社に貢献していると実感できる―

応物を離れ社会人になって早３年。研究生活を満喫していた博士課程３年間と同じ長さとは思えないほど、この３年間は本当にあっという間でした。じっくり考える**学者風の研究スタイルから、結果とスピードを重視する企業的な研究スタイルへとシフトチェンジ**したことで、時間の体感速度が激変しました。研究者として生涯を全うしていくのか自問自答を繰り返す日々ですが、**大学と企業の両方で研究に打ち込んだ経験は、研究という枠を超えて人生の糧**になると信じております。

私は研究室配属時から博士課程を修了するまで佐久間研究室に在籍し、スピントロニクス理論の研究に従事しました。博士課程修了後は、１年間のポスドク期間を経て東芝に入社しました（現在は東芝メモリ）。スピントロニクス分野に関わる要素技術開発に従事し、実験結果に対する理論解析やシミュレーション業務を担当しています。「学生時代の専門性を生かして、モノづくりにつながる基礎研究がしたい」という希望が叶い、入社直後は本当にワクワクしていました。**しかし、新人研修が終わって業務が本格化すると、想像以上のスピードで研究結果を求められ愕然**としました。この先やっていけるのかと不安で仕方のない日々を送ってきましたが、気が付けばあっという間の４年目。まだまだ半人前ではありますが、**応物時代に培った物理力を最大限に発揮し、会社に貢献していると実感できるような成果が上げられるようになってきました。**“新しいモノを世に送り出すための研究開発”というチャレンジングでやりがいある仕事に携われる幸福感を噛み締めながら、目の前にある課題を一つ一つクリアして日々精進していく所存です。

P.S. お陰様で妻（元秘書）・長男ともども元気にしております！



学生時代はスピントロニクスの理論を勉強していました。特に、磁気メモリやマイクロ波発振器/検出器に応用されるスピンダイナミクスを研究しました。図はスピンの緩和機構を説明しています。